



とぎのこえ Good News for Japan

神を見られる心

吉田 司



今、NHKテレビで、新島八重を主人公にした大河ドラマが放映されています。八重の夫新島襄は、京都にある同志社大学の創設者として知られていますが、彼は手紙の中で、八重をこのように評しています。

「彼女は決して美人ではありません。しかし、私が彼女について知っているのは、美しい行いをする人(ハンサム・ウーマン)だということです。私にはそれで充分です。」

襄は、八重のおこない、心のありようを愛し、生涯尊敬し合い、いたわり合いました。私たちはどうでしょ

う。人を見る時、また、自分自身を振り返る時、何を基準にしているでしょうか。

一 神の選び

旧約聖書にダビデという人物が出てきます。彼はイスラエルの二代目の王となった人物ですが、ダビデが王として神から選ばれた時のことが、聖書に詳しく記されています。

その時、神は

「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは……人間が見るようには見ない。人は目に映えることを見るが、主は心によつて見る」(サムエル記上

16章7節)

と言われました。人間の選びの基準はおもに外見で、目に見える容姿や格好、学歴、地位、財産などが重要なものとなっております。それに対して、神の選びの基準は中身であつて、目に見えない人間の本质―心が重要なのです。

イスラエルの最初の王サウルは、だれが見ても素晴らしい風格があり、国民からの支持率も高かった人物でした。しかし、神から与えられたすばらしい賜物を信仰的に生かすことができず、その心に濁りが芽生え、高慢な生き方

をして、王座から退けられたのです。

二 神の選びの基準

聖書の少し後の個所に、ダビデの「目は美しく……」と書かれています。私たちの心の動機、心の目を主は見えておられます。心が暗ければ全身が暗黒となります。

「体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るいが、濁っていれば、全身が暗い。」(マタイによる福音書6章22、23節)

私たちの目は心の窓です。ダビデの父エッサイの七人の息子たちは、背が高く、軍服を着た姿も凛々しく、人の目には王となるにふさわしく見えました。しかし、神は、その誰をも次の王として選ばれませんでした。そして、父が対象外にした八番目の末っ子ダビデを選ばれたのです。

ダビデはまだ戦場に行く年齢に達しておらず、父の羊の番をしていました。黙々と羊の番をし、ある時は羊を守るため猛獣と闘うという日々を送っていました。

(救世軍士官(伝道者))

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。

一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

した。街の喧騒から離れた野にあつて、彼の心の目は、ただ神に注がれていたのではありません。それが、彼の美しい目に現れていたのです。

三 神の祝福

ダビデが王として選ばれたと、

「主の霊が激しくダビデに降るようになった」(サムエル記上16章13節)

と聖書に書かれています。これは、ダビデの心がよめられ、王にふさわしい力が与えられたことを意味しています。この力は、地位や名誉、あらゆる誘惑に勝つために必要でした。

イエス・キリストは

「心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る」(マタイによる福音書5章8節)

と言われました。神は私たちの内面を見ておられます。その神の前に、「心の清い生き方」をさせていただき、神に祝福された歩みができよう、祈るものです。



〈信仰の体験談〉

間違いのない人生



小金澤 誠助

私は、山形県米沢市が郷里です。家は、専業農家で、六人兄弟の上から四番目の次男として生を受けました。米沢は山に囲まれた盆地で、冬は一メートルから一・五メートルの雪が一面に降り積もり、三カ月は雪に閉ざされます。

そんな田舎で、近所のおばさんがクリスマス子ども会に、子どもたちを公民館に誘ってくれました。集まったのは、十五人くらいで、主に小学生でした。賛美歌を歌い、お祈りをして、クリスマスの暗唱聖句、紙芝居、外国人の牧師さんのお話を聞きました。帰りにカードやお菓子をいただいて、とてもうれしかったことを覚えていきます。

その時のお話や歌などは何も覚えておりませんが、暗唱聖句だけは今でも言うことができます。

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」

(ヨハネによる福音書 3 章 16 節 口語訳聖書)

このような子ども会やクリスマス会に、小・中学生の頃に三、四回行ったと思

います。

教会に行っただのは高校生の頃でした。すぐ上の姉が町の教会に毎週通っていて、昼間行けない時は夜の集まりに行っていました。そのボディーガード代わりに、誘われて私も集まりに出席していたのです。

高校を卒業すると、進学のため同郷の友人と一緒に前橋に来ました。友人は教会に通っていて、前橋に来る際に、米沢の牧師さんより救世軍前橋小隊(教会にあたる)を訪ねるように言われ、手紙を預かってきたようです。その友人から誘われ、私も前橋小隊の礼拝に出席するようになりました。

当時、前橋小隊には、小隊長(牧師にあたる)のほか、に連隊長(関東地区の責任をもっている士官(伝道者)がいらつしやつて、私たちを食事に誘ったり、アルバイト先を見つかったり、親身になってお世話してくださいました。連隊長に

「救世軍にずっとつながっていないさい。間違いのない人生を送れませよ」



家族と (平成3年頃)

と言われたことが忘れられません。また、信徒の方々にも、本当に温かい交わりをいただきました。

前橋小隊に通っているうちに、小さい頃に暗唱した「神はそのひとり子を」という、ヨハネによる福音書三章一六節の意味がわかり、神様が私を愛していてくださること、そのためにイエス様をこの世に送り、自己中心的な罪深い私のために十字架にかけてくださったことを知りました。

私は、神様にお従いする者になりたいと強く願い、悔い改めて、昭和三十九年二月九日に救世軍兵士(正式に救世軍に属する信徒のこと、教会員にあたる)とならせていただきました。

考えてみると、子どもの頃、クリスマス会に誘ってくれた近所のおばさん、教会に連れて行ってくれた姉、救世軍に誘ってくれた友人



そして小隊の方々を通して、神様がずっと私を導いてくださったことを感じ、感謝しました。

兵士となつてからは、毎日聖書を読み、お祈りをして、心が元気になり、生活の中で自然と賛美歌を口ずさむほどに恵まれるようになりました。

学生時代は、アルバイトや対人関係の中で、その時々々に聖書の御言葉から教えられ、助けとなりました。一番心に残った御言葉は、

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである」(テサロニケ人への第一の手紙 5 章 16-18 節 口語訳聖書)

でした。

私が二十七歳の昭和四十五年十一月十五日、士官方や信徒の方のお世話により、同じ救世軍の信徒の家内と結婚しました。クリスマスチャンホームができ、男の子が三人与えられました。

その間、生き方について襟をただされる事がありました。勤め先の先輩が定年退職になるので、一泊二日のお別れ旅行へ行った時のことです。先輩を含む七人で佐渡へ行ききました。道路の右端を二列に並んで歩いていると、居眠り運転の乗用車が列に突っ込み、私ははねられてしまいました。一緒にいた人の話によると、私はボンネットに打ち上げられて車の屋根の上を転がり、車もろとも田んぼに飛ばされたそうです。黒い物が近づいて来たの

で、とっさに持っていた旅行鞆で体をガードしたところまでは覚えているのですが、車にはねられたのも転がったのも記憶にありませんでした。幸い、落ちた所がまだ水田だったので、左手の骨折だけで済みました。この経験から、いつ神様に会うことになっても恥ずかしくないように、日々備えていなければならぬと考えさせられたのです。

私は、昭和四十六年、結婚した次の年から日曜学校の教師をさせていただいて

います。当時、小隊から遠くに住んでいる日曜学校生徒を車で送迎している信徒の方がいて、私に手伝ってほしい、と声をかけてくださったのです。すぐに手伝わせていただき、ほどなく、日曜学校の司会やクラスで聖書の話もするようになりました。これは、私の信仰生活を送る上で大きな助けとなりました。子どもに話すために自分自身がよく理解していなければならぬので、深く学ぶこと、またクラスでの子どもたちとの会話からも教えられるこ

とー毎回、二度、お恵みをいただきました。その頃は、四十〜五十人の子どもたちが来ており、元気でにぎやかな中に、静かに聖書を輪読し、交代に祈る時をもち、充実した時を過ごした日曜学校でした。その中から、今日、救世軍の伝道者として歩んでいる方もいて、神様のなさる素晴らしい業とご計画を見させていただいています。

七年前に定年退職となりましたが、地域でいろいろなボランティア活動をさせていただいております。その基盤は聖書を土台にして、救世軍精神の「心は神に手は人に」をモットーにしています。



七十年を顧みる時、うれしいことばかりでなく、つらく悲しいこともありましたが、祈りと御言葉により励まされ、神様が共にいてくださると信じて歩んできました。若い頃、「救世軍にずっとつながっていないなさい。間違いない人生を送れますよ」と言われた言葉がよみがえります。これからも、神様から離れず、イエス様を模範として歩んでいきたいと思っております。

★ヨハネによる福音書一〇章一節(新約聖書)
わたしは良い羊飼いである。
良い羊飼いは羊のために命を捨てる。

命のある限り
恵みと慈しみはいつもわたしを追う。
主の家にわたしは帰り
生涯、そこにとどまるであらう。

★ヨハネによる福音書一〇章一節(新約聖書)
わたしは良い羊飼いである。
良い羊飼いは羊のために命を捨てる。

私の近くの救世軍を紹介してください。
キリスト教についてもっと知りたいです。
『ときのことえ』の購読を申し込みます。

ご氏名
ご住所

有名な聖書の言葉

★詩編二三編(旧約聖書) 賛歌。ダビデの詩。

主は羊飼いで、わたしには何も欠けることがない。
主はわたしを青草の原に休ませ
憩いの水のほとりに伴い
魂を生き返らせてくださる。
主は御名にふさわしく
わたしを正しい道に導かれる。
死の陰の谷を行くときも
わたしは災いを恐れない。
あなたがわたしと共にいてくださる。
あなたの鞭、あなたの杖
それがわたしを力づける。

わたしを苦しめる者を前にしても
あなたはわたしに食卓を整えてくださる。
わたしの頭に香油を注ぎ
わたしの杯を溢れさせてくださる。

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 リンダ・ボンド (万国本宮 英国 ロンドン) 日本司令官 勝地 次郎 (救世軍本宮 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp E-mail: webmaster@salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈 Bangladesh 〉ビル倒壊被災地支援

4月24日、Bangladeshの首都ダッカ近郊で、8階建てのビルが倒壊し、死者1000人以上、負傷者2000人以上を出しました。瓦礫の撤去が進むに従い、死者数はさらに増えるものと見られています(5月12日現在)。事故原因は、手抜き工事と、ビルの違法使用(商業施設としていながら、縫製工場が入居)によるためと発表されました。大型発電機4台と2000台以上のミシンが同時に稼働し、その振動による倒壊ということです。犠牲者のほとんどは縫製工場の労働者です。



現場から1キロほどのところにあるBangladeshの救世軍士官学校(伝道者養成所)は、ただちに駆けつけ、行政の依頼により医薬品を現地のクリニックや病院に届けました。また、収容されないままの遺体に腐敗を防ぐ粉末の香料を散布しました。救世軍国際本部からは3000USドルが送られ、労働者の家族へ医薬品と食べ物を届けるために使われています。

〈 America 〉ボストン・マラソン同時爆発被災者支援

4月15日、ゴール付近で起こった爆発により3人が死亡、170人以上が負傷しました。救世軍は、事件発生後直ちに、市内数カ所において食べ物や飲み物を配るとともに、人々の精神的ケアに携わりました。翌日までに、被災者やその家族、救援活動をおこなっていた人々に、2000食を配布しました。

〈 Japan 〉東日本大震災被災地復興支援リポート(続)

4月25日、厚生労働大臣からの感謝状の伝達式が、宮城県庁でおこなわれました。宮城県の支援をした関係団体116団体(62団体がこの日出席)に、保健福祉部長岡部敦氏より感謝状が授与されました。救世軍より、震災被災地支援事務局長の石坂臣司少将と救世軍に授与された感謝状



救世軍に授与された感謝状 佐(写真右端、補佐の石川一由紀少佐の2人が出席しました。

4月29日、宮城県牡鹿郡女川町の希望の鐘商店街のオープン1周年の感謝祭がおこなわれました。大きな支援をおこなった救世軍も招かれ、式典では、救世軍を代表して震災被災地支援事務局長が司令官の祝辞を代読し、これからも、この地域とのつながりを大事にし、共に復興のために歩ませてもらいたい、と伝えました。救世軍のキャンティーンカーも出動し、桜餅茶と桜おこわ最中を、1周年のお祝いににぎわう商店街にきた人々に振る舞いました。



地元の方と共に祝いました

この他、南三陸町(宮城県)や陸前高田市(岩手県)でも、引き続き地元のニーズに応えた支援が続けられています。



救世軍ブース記念病院 〒166-0012 東京都杉並区和田1-40-5
TEL 03-3381-7236 (代表)
<http://boothhp.salvationarmy.or.jp>

〈診療科目〉内科、消化器内科(内視鏡)、循環器内科、神経内科、精神科、整形外科、皮膚科、眼科、リハビリテーション科、ホスピス外来、漢方内科、各種健康診断 199床(療養病棟147床、一般病棟32床、緩和ケア病棟(ホスピス)20床)



救世軍清瀬病院 〒204-0023 東京都清瀬市竹丘1-17-9
TEL 042-491-1411
<http://kiyosehp.salvationarmy.or.jp>

〈診療科目〉内科、循環器科、神経内科、呼吸器内科、皮膚科、リハビリテーション科、緩和ケア内科 142床(療養病棟117床〔うち介護保険病床43床〕、ホスピス緩和ケア病棟25床)



両病院とも(財)日本医療機能評価機構認定病院です。清瀬病院は病院機能評価付加機能(緩和ケア機能)認定も取得。両病院とも、どなたでもご利用いただけます。

ブース記念老人保健施設 グレイス
〒166-0012 東京都杉並区和田1-40-15
TEL 03-3380-1248

併設: 杉並区地域包括支援センター「ケア24和田」、ブース記念ケアマネジメントセンター和田、ブース記念訪問看護ステーション、ブース記念訪問介護ステーション ルツ・ナオミ

● 両病院及びグレイス、恵みの家で 看護師、介護福祉士を募集中

特別養護老人ホーム(ユニットケア型) 救世軍恵みの家 2013年5月開設
〒166-0012 東京都杉並区和田1-41-11
TEL 03-3381-7243 (代表)

ユニットケアという形で、少人数の家族的な雰囲気の中でケアがなされ、食事や入浴、行事など、日常生活がユニット毎におこなわれています。



救世軍創立記念 野外コンサート 入場無料
6月9日(日) 日比谷公園小音楽堂 午後2時
日曜の屋下がり、さわやかなプラスバンドの響きをお楽しみください。

救世軍とは
The Salvation Army
イエス・キリストを唯一の救い主と信じる、プロテスタントのキリスト教会です。創立者はイギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブース。1865年、ロンドンの貧しい人々、社会から顧みられない人々の物心両面からの救いをめざして、働きを始めました。現在は、世界126の国と地域で、助けを必要としている人々のニーズに応えながら、神の愛を伝えています。日本での働きは、1895(明治28)年に始まり、現在は、45の小隊(教会にあたる)と11の分隊(伝道所)、20の社会福祉施設、2つの病院(ホスピス併設)を通して働きを進めるとともに、街頭生活者支援や災害被災者救援及び復興支援など、社会奉仕活動をおこなっています。

発行所 救世軍本宮
印刷所 救世軍本宮
電話 東京(03)三三七〇八八一
〒101-0051 東京都千代田区
編者 齋藤 恵子
印刷兼 代表者 勝地 次郎
発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号一部五〇円(六六〇円)
十五日号一部六〇円(六六〇円)
クリスマス特集号(十二月一日号) 一部一〇〇円(六六八円)
一年分一三七〇円(送料七二八円)
振替 〇〇一八〇一五四四〇〇

(取扱支部)
救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くとは第三種扱いになりません)